

「徴税人ザアカイ」

2015年11月13日

ルカによる福音書 19章1節～10節。イエスはエリコに入り、町を通っておられた。そこにザアカイという人がいた。この人は徴税人の頭で、金持ちであった。イエスがどんな人か見ようとしたが、背が低かったので、群衆に遮られて見るができなかった。それで、イエスを見るために、走って先回りし、いちじく桑の木に登った。そこを通り過ぎようとしておられたからである。イエスはその場所に来ると、上を見上げて言われた。「ザアカイ、急いで降りて来なさい。今日は、ぜひあなたの家に泊まりたい。」ザアカイは急いで降りて来て、喜んでイエスを迎えた。これを見た人たちは皆つぶやいた。「あの人は罪深い男のところに行って宿をとった。」しかし、ザアカイは立ち上がって、主に言った。「主よ、わたしは財産の半分を貧しい人々に施します。また、だれかから何かだまし取っていたら、それを四倍にして返します。」イエスは言われた。「今日、救いがこの家を訪れた。この人もアブラハムの子なのだから。人の子は、失われたものを捜して救うために来たのである。」

ローマ帝国は属国から税金を取り立てた。膨大な軍隊、豪華な貴族社会を支えるために莫大な資金を必要としたからである。その時、ローマ人が直接取り立てると反感を買うので、その国から徴税人を雇い、彼らに税金の徴収をさせた。自国の金をローマに届ける徴税人は「売国奴」と言われ、共同体から疎外され、「罪人」として排斥されていた。徴税人の中には、不正な取り立てをし、私服を肥やす人もおり、彼らへの憎しみは更に深まっていた。

エリコの町に、ザアカイという金持ちの徴税人の頭がいた。彼は、評判になっている主イエスがエリコに来て、大騒ぎになっていることを知った。どんな人か見たいと思ったが、背の低いザアカイは、群がる群衆に遮られ、見るができなかった。嫌われていたザアカイのために前へと道を開けてくれる人はいなかった訳である。彼は先回りして、いちじく桑の木に登り、通り過ぎる主イエスを見ようとした。主イエスはその場にさしかかると、いちじく桑の木に登っていたザアカイを見上げ、「ザアカイ、急いで降りて来なさい。今日は、ぜひあなたの家に泊まりたい」と声をかけられた。彼は自分の名が呼ばれ、しかも、家に泊めてほしいと聞いて仰天した。町の人々は、彼を軽蔑のまなざしで見ると、そっぽを向くかで、声などかけてくれる人は一人もいない。ところが、主イエスは普通の人として呼びかけ、「罪人」と烙印された自分の家に宿泊したいと言われる。喜んだザアカイは急いで降りて、自宅に迎え入れた。

これを見た人々は「あの人は罪深い男のところに行って宿をとった」といぶかった。ザアカイの家では喜びの音が響き渡る楽しい宴会が持たれたであろう。すると、ザアカイは立ち上がって、主イエスに「主よ、わたしは財産の半分を貧しい人々に施します。また、だれかから何かだまし取っていたら、それを四倍にして返します」と明言した。全財産ではなく半分を貧しい人々に施す、また、不正な取り立てをしたら4倍にして返す。これを聞かれた主イエスは「今日、救いがこの家を訪れた。この人もアブラハムの子なのだから。人の子は、失われたものを捜して救うために来たのである」と応じられた。

人は孤独の悲しみには耐えられない。友として親しく交わってくれる主イエスによって、人間に回復させられた出会いを、ユーモラスに伝えている。